

## 伴走型支援士養成 講座で協会と連携

### 日本福祉大が協定

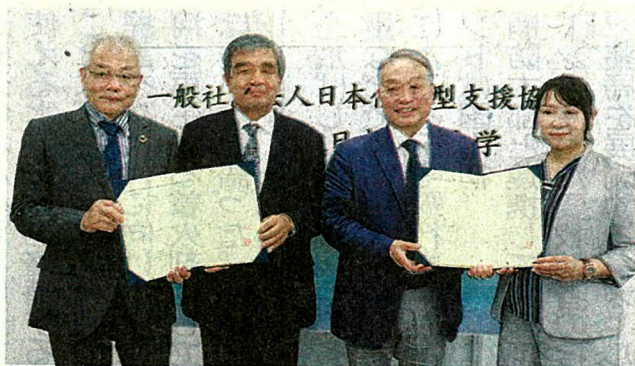
日本福祉大(美浜町)と一般社団法人日本伴走型支援協会(北九州市)は十五日、東海市大田町の日本福祉大東海キャンパスで、伴走型支援士の養成講座の開講で連携する協定を結んだ。

生活困窮者が住む家を持つたり就職したりして、物理的、経済的に自立しても、その後家族や支える人がおらず社会的に孤立してしまつといった課題がある。

伴走型支援は問題解決後もつながら続けることに重きを置いた支援。日本伴走型支援協会によると、これまでに協会の講座や認定試験を受けて、約千二百人が支援士に認定されている。

締結式に出席した協会の奥田知志理事は「日本全体が孤立化する中で、連携しながら日本社会の次の姿を創造的に議論していきたい」と話し、児玉善郎学長は「伴走型支援士の養成と、卒業生のスキルアップの機会になれば」と述べた。

講座はオンライン形式で、十月から全十五回開講する。講座の修了後に、協会が開くスクリーニングを受講すると認定を受けられる。



協定書を手にする奥田理事(右から2人目)ら出席者。東海市の日本福祉大東海キャンパスで